

10. 加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH症候群)に対し、 アンドロゲン補充療法(ART) 継続中に 三黄瀉心湯を併用し、ARTを中止できた症例

日高病院 泌尿器科¹⁾、東葛病院 泌尿器科²⁾、大野クリニック³⁾
○福間 裕二¹⁾、小澤 雅史²⁾、大野 修嗣³⁾

LOH症候群に対する治療は、「性腺機能低下症診療の手引き」に準拠し、ARTを中心に多数行われているが、中にはARTの適応から除外されるため、治療に苦慮する症例も多く存在する。また、ARTを行っていても、患者の希望のためARTの中止を決断するのに困難な状況も存在する。今回、ARTと同時に漢方治療を導入し、三黄瀉心湯を使用してから3ヶ月でARTを中止できた症例を提示する。

症例は65歳、男性。頻尿・便秘・全身倦怠感・頭部のほてり・下半身の冷えを主訴にX年11月18日当科受診。LOH症候群と診断し、X年12月22日よりART開始。X+1年2月2日より柴胡加竜骨牡蛎湯を追加し、のぼせ感、不眠が改善したものの、ARTは継続して行っていた。X+1年6月22日に手掌煩熱と便秘を指標に三黄瀉心湯を追加。翌月には便秘や手掌煩熱とともにのぼせ感も著明に改善し、X+1年9月14日にARTを中止。その後も同処方のみで、症状の再発無く経過できており、徐々に減量し、X+2年3月28日に両剤とも廃薬とした。

三黄瀉心湯は、瀉心湯類では最も実証向けの薬方であり、黄連解毒湯よりも更に実証で便秘を伴うものに使用される。三黄瀉心湯には大黃が含まれており、漢方医学的には大黃に瀉下作用だけでなく、清熱作用や安神作用をもつとされている。LOH症候群や男性更年期障害では、のぼせや顔面紅潮などの熱証を陰虚証気逆と捉え、桂枝を含む方剤で対処することが多い。しかし様々な治療でも奏功しないのぼせや顔面紅潮の場合は陽実証の気逆と捉え、瀉心湯類を使用することは、有用な選択肢の一つであり、特に三黄瀉心湯はその方剤の構成から、便秘を伴う熱感に非常に効果的であり、LOH症候群や男性更年期障害の診療において、是非理解しておきたい処方であると考えられる。